

ポーポキ通信 No.11 2006.9.6

NEWS FLASH: ポーポキのミミの新しいDVD(ピースマシンの旅・オキナワ、10分)がいよいよ新発売!

岩波DVDブック *Peace Archives* 『オキナワ 沖縄戦と米軍基地から平和を考える』(岩波書店 4200円)DVD収録映像/約30分のうちピースマシン10分

夏はポーポキ関係の取り組みがたくさんありました。今回の「ポーポキ通信」ではそのうちの3つに着目しましょう。

試してみました! 「平和ってなにいろ?」 市田真里

初めまして! 平和博物館を創る会の市田真理です。夏は毎年、原水爆禁止の行事に参加するために広島・長崎に出かけて本や映画を普及しています。今年も写真集『広島・長崎一原子爆弾の記録』や10フィート映画『にんげんをかえせ』などを背負って酷暑の広島へ。「ロニー・アレキサンダー訳」の平和絵本もたくさん担いでいきました。

8月5日 日本生活者協同組合主催の「虹のひろば」では、前半に被爆者のお話を聞くやコンサートが開催され、後半はお祭の屋台のように配置された地域の生協の取り組み発表やユニセフの紹介、民族衣装体験コーナー、核兵器廃絶ミニ講座などに自由に参加できる「みんなのひろば」となります。ここで1ブースをお借りして、「ポーポキ・ピース・プロジェクト~平和ってなにいろ? 平和って何味?」と題したコーナーを作りました。

通りすがりの人に声をかけて趣旨を説明して書いてもらう、というのはなかなか至難のワザでしたが、小学生たちが楽しそうに参加してくれました。言葉で具体的な色を書いてもらうのは難しいかと考え、小さな色紙を用意し、「あなたの気持ちをおしえてください」とお願いしたところのべ70人が「わたしの平和色」を選び理由やメッセージを書いてくれました。青系、緑系では微妙な色の違いがありますがだまかに分けると、青9、緑7、黄色7が上位でした。

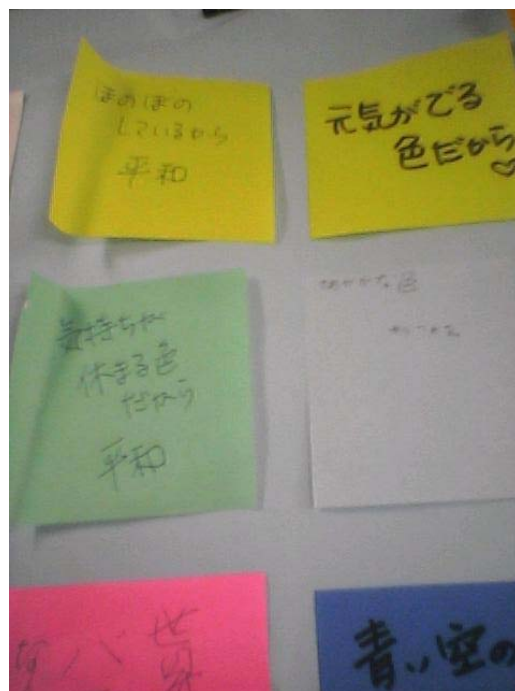


◇平和の色は自然の色？

青・・・「空の色 みんなの頭上にあつて平等というイメージ」「「いつまでも青い空を見ていたいから」「敗戦の日の空は良く晴れていた」「空を安心して見上げられるのは平和」

緑・・・「人間にもほかの生き物にもやさしい森の色」「家族でくつろぎ飲むお茶の色」「自然が喜んでいる感じの若草色は平和」

黄・・・「ほのぼのしている」「元気でる色」「心のかがやき」「ひまわりの色、太陽にむかって咲く」



「心がうれしく暖かいときの色」(オレンジ)、「世界がバラ色になるように」(ピンク)、「ほっぺの色」(赤)「よごれていない」(白)「きれいで何も無いおだやか感じ」(透明)のほか、“生協虹のひろば”だけに(?)「虹色」という意見もありました。

意外とおとなは悩みますね。「うーん考えたことないなあ、少し考えてまた来ます」と冷や汗をかいていた方もいるくらい。チビっこたちはとにかくサクサクと選んで書いていました。

◇平和の味ねえ・・・？と立ち止まる

一方「味」の方はふるわず、ダミーで私が書いた「汗をかいたあとのビールのひとくちめ」というのに賛同の声が多数あがったものの、イメージしづらいようでした。「お母さんのつくった煮物」「とろりとした甘味」という意見をいただきました。五感を使って平和をイメージする入口くらいにはなったかなあ～と思っていますが。

小さな子がお母さんに「平和ってなあに？」と尋ねながら一生懸命考えていたりするのをみると、まずは考えるチャンスを創ることも大切なのだとあらためて感じました。プロジェクトのよびかけなども配布したので、家庭でもイメージを出し合ってくれたら嬉しいなあ。

◇色を選べるのは平和

私たちのお隣のブースでは長野県の生協のメンバーが「松代大本営」（戦争末期、東京壊滅を恐れて天皇と大本営を安全な場所に移すべく突貫工事で作られた地下要塞の跡地。多数の朝鮮人、中国人が強制労働させられたといわれています）についての発表をしていたのですが、「戦争中は色のない時代だった。カーキ色は大嫌い。平和の色を聞けることじたいが平和ねえ」とおっしゃっていました。本当にそうですね。平和の色をイメージすることそのものが平和の証かもしれないと思いました。

(真理)

真里さん、暑かったでしょう！お疲れ様でした！

第20回広島YMCAのユース・ピース・セミナー 2006.8.6-4

広島YMCAのユース・ピース・セミナーに参加したのは、日本全国、ハワイ、インド



(ムンバイ市) などから約 50 名の高校生と、大学生リーダー（日本）、YMCA外語学校の先生方（日本、イギリス、アメリカ）、各YMCAのスタッフ（日本、タイ）など約 30 名のスタッフでした。4日は語り部や平和資料館・平和公園見学、6日は平和式典参加という形で原爆について理解を深めたが、5日は一日中、ポーポキと一緒に平和を考える日に設定され、はじめての「終日ポーポキ・ワークショップ」

をしました。最終的にグループ毎に「作品」をつくり、それを6日に発表しました。「作品」は次の条件の下でつくられました。①発表時間10分、②発表に通訳を使わないこと、③「非平和の状態」、「それが解消された状態」、「ポーポキ」、「私（あるいは私たち）」を盛り込むこと。五つのグループは、紙芝居（無関心）、劇（いじめ、差別、多様性）、歌・パワーポイント（暴力）とすばらしい作品をつくって、一生懸命に発表してくれました。作品に感激しつつ、創造力を出せる状態をつくってくれるポーポキの力にも感動しました。（ロニー）



感想 横浜 YMCA リーダー 阪上紗里

広島YMCAのピースセミナーでポーポキのワークショップをはじめて経験しました。10人という人数で、日本人、ハワイアン、インド人が集っていましたが、言葉の壁や、ニュアンスの違いがある中で、意見を短時間にまとめることにとても苦労しました。しかしそれをのりこえ、みなでひとつのものを表現することはとてもすばらしい経験だと思います。「平和」というと、ついつい大きな問題を考えてしまう私でしたが、このワークショップを通し、「身近な平和」が大きな平和につながることに気づきました。実際このセミナーでともに笑い、協力し、友情を育み、同じ楽しい時間を持つことが平和ではないでしょうか。 (阪上さん)



感想 横浜 YMCA スタッフ 郡司すみれ

「平和ってどんな色？」という言葉聞いたとき、正直、「えっ？」と思いました。平和について学ぶというと、戦争について学ぶこととイコールになっていた部分が多く、知識からでなく感覚から捕らえる平和というのはとても新鮮でした。様々な国からいろいろな価値観を持った人が集まっているセミナーでしたが、ワークショップが進むうち、いろいろな壁にぶつかりながらも、共通の目的に向かって出身や言葉などを超えてメンバーがひとつになっていくのを感じました。それは、一人ひとりの幸せや平和を求める気持ちはどんな人にも共通なのだ、とメンバーたちが再確認できたときでもあったと思います。このワークショップで私たちは、平和という大きな目標に近づくために自分が踏み出せる小さな一歩が何なのか、そのヒントをポーポキからもらったような気がします。



(グループワーク中の郡司さん。)

阪上さん、郡司さん どうもありがとう！

濟州島で平和教育の会議 Pathways to Peace 2006. 8. 24-27

この会議でポーポキ・ピース・プロジェクトについての報告とミニ・ポーポキ・ピース・ワークショップをしました。

感想 野呂 香

今回初めて参加した、ワークショップ&セミナー“Pathways to Peace”のセッションの中でも、とくに心に深く残ったのが、神戸大学教授のロニー先生のワークショップ“Popoki’s Peace Lesson”だ。ロニー先生は遠くを見つめるように、15年近く最愛のパートナーとして共に過ごした愛猫との出会いから最後のお別れの日までのエピソードを穏やかに語ってくださった。そして彼こそがこの絵本の主人公であり「平和」を模索する旅へと私たちを誘ってくれる白くてふっくらとした猫、Popoki（後で聞いたら、Popoki とはハワイ語で「猫」の意だそう）だと知ると、これから始まるDVDのお話に一段と興味がそそられた。「平和ってどんな色？」そんなふうが始まるPopokiの絵本(DVD)は、「平和」を議論や知識で論じるのではなく、あくまでも感覚的に私たちの日常のなかにあるふとした感情や身近な出来事として五感に問いかけて来るものになっている。難しい言葉は一切ない。けれど、Popoki が教えてくれるシンプルな問いかけは強くて深い。Popoki が気付かせてくれた様々なメッセージから得たそれぞれの思いを最後にグループワークで意見交換をしながらまとめる。私たちのグループは、「平和」への願いや希望を、一つの絵に描いてみた。太陽、雨、虹、木々、花、蝶、生命あふれる明るい絵が出来た。最愛の存在を失ったその深い喪失感と悲しみの経験から生まれた「平和」を模索するPopokiとの終わりなき旅。「平和」とは、そんなふうにあつめるものを失う悲しみ、愛するものを愛おしむ気持ちから生まれる、「願い」なのかもしれない。世界が核の脅威に脅え、国と国が争い合い、人と人との憎み合いが続く今日、Popoki は私たちにとてもかけがえのないメッセージを投げかけてくれている。



野呂さん、どうもありがとう！

後もう少し！ポーポキ平和募金を広げましょう！一口1500円！

郵便振り込み口座番号 00170-9-593927

講座名 ポーポキ・ピース・プロジェクト